



# 米子市埋蔵文化財センターたより

第1号

2011年6月

## 5区から弥生時代の墳墓を発見! —南部町境矢石遺跡—



5区 (石囲いの墓)



5区 (木棺墓)

境矢石遺跡(さかいやいしいせき)は、西伯郡南部町境に所在する弥生時代から奈良時代の集落と墳墓の遺跡です。平成22年3月から国道180号線バイパス(南部バイパス)の建設工事に伴う発掘調査として行っており、今年度も継続して調査を実施しています。

遺跡は、法勝寺川中流域の左岸にあり、標高28~51mの丘陵上と裾部に位置しており、調査は区域を6区に分けて行い、今年度は4~6区を対象として行っています。

**4区** 丘陵頂部と斜面に位置し、丘陵の斜面から弥生時代後期~古墳時代中期の竪穴住居跡5棟、段状遺構20基、貯蔵穴3基を確認しました。また丘陵下部では奈良時代の段状遺構を調査中です。出土品は、弥生式土器、土師器などの土器が主な物ですが、貯蔵穴からヒスイの勾玉が検出され注目されます。また、奈良時代の段状遺構から土馬が出土しました。

**5区** 丘陵先端部の裾に位置し、弥生時代前期~中期の木棺墓33基、弥生時代後期の竪穴住居跡1棟、古墳時代中期の竪穴住居跡1棟、古墳時代後期~奈良時代の掘立柱建物2棟が確認されました。木棺墓の内、側板を固定する石が据え付けられたものが8基、また石囲いをされた墓壇が1基確認されています。木棺墓内から副葬品は発見されませんでした。(高橋)



4区 (竪穴住居跡と貯蔵穴)

## 発掘調査情報

### 伯楽塚遺跡(ばくろうづかいせき)―伯耆町坂長―

伯楽塚遺跡は、越敷山(標高 226m)の北麓、伯耆町坂長の標高 90m 前後の丘陵地に位置しています。昨年度末から国道 181 号線バイパスの建設工事に伴う発掘調査を実施しており、今年度も継続して 4 月から 10 月の期間で現地調査を行う予定です。

昨年度から調査を行っている谷部からは、縄文時代の落とし穴 2 基を確認したほか、縄文時代早期(今から約 8,000 年前)の押型文土器が出土しました。越敷山周辺の遺跡では、縄文時代早期の土器が出土する事例がまれにあることから、当時この周辺で狩猟・採集活動が行われていたのでしょうか。丘陵の尾根部では、土塁状に盛り上げられた遺構と、堀のような遺構が複数存在することが判明したため、ラジコンヘリによる空中写真撮影と測量作業を行い、調査記録を作成します。また、この土塁の中には小形の石棺が含まれていることから、古墳の墳丘をそのまま利用して土塁が造られているものと考えられます。

恐らく、調査区の北側に点在している伯楽塚古墳群と同一の古墳が、この調査区内にも存在することを示しているようです。また、土塁の造られた年代については、調査途中のため分かりませんが、中世末の戦国期に築かれたものか、あるいは昭和 20 年に越敷山一帯で行われた本土決戦用の陣地構築、いわゆる「チ号演習」によって造られた塹壕跡の可能性も考えられることから、これから更に調査を進めていきます。(佐伯)



土塁状(塹壕状)遺構

## 整理室だより

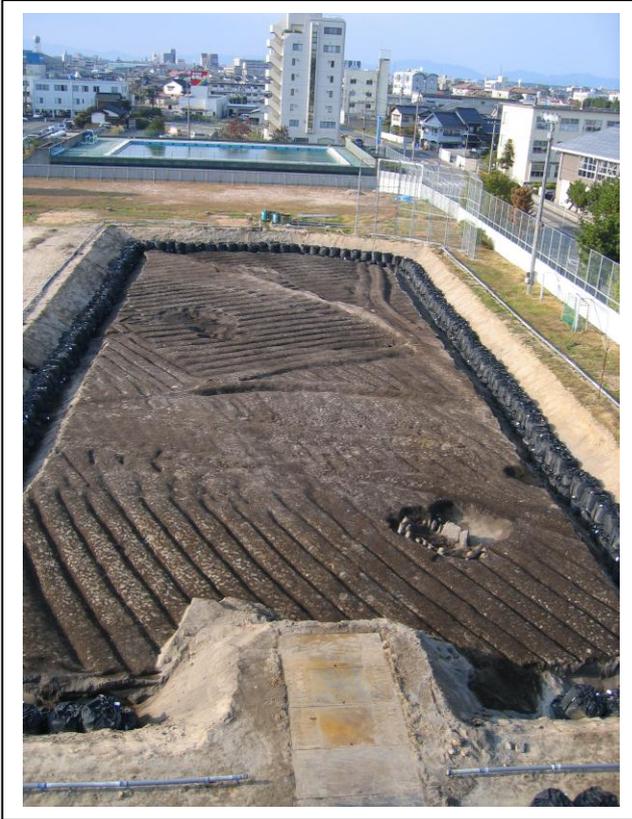
**境矢石遺跡の整理** 整理室では現在、境矢石遺跡から出土した遺物の整理作業を行っております。4 区・5 区からは弥生時代から古代にかけての遺物が出土しました。酸性の強い丘陵部の土や粘性の強い低地の土の中に長い間眠っていた土器は非常に脆く、中には土と同化してしまっているものもあります。このため、洗浄後、補強材に浸けた後に細かい破片を一つ一つ接合していくことは大変根気のいる作業になります。そうした作業の結果、往時の姿に復元された土器は実測作業に回され、報告書に掲載されていきます。(濱野)



接合作業風景

## 遺跡シリーズ 1

## 博労町遺跡 (ばくろうまちいせき)



博労町遺跡は、米子工業高等学校の校舎建替えのために調査された遺跡です。

調査の結果、一時的に空白の時期はありますが、この地では弥生時代の終わりごろから、現代までの人々の営みがあったことがわかりました。

特に大きな成果としては、弥生時代の終末から古墳時代の初めのころの集落跡、奈良・平安時代の官衙関連の遺構、中世の畠跡（写真1）が確認されたことです。

また遺物もコンテナ 1,200 箱と多量に出土しました。珍しいものでは写真のような背中合わせの勾玉も出土しました。（平木）



### コラム－米子市内の旧石器を掘る－

平成 16 年度に調査した諏訪西山ノ後遺跡で、古墳の周溝埋没土からナイフ形石器が 1 点出土しました。一般的に旧石器時代の遺物は、ローム層と呼ばれる火山灰の堆積層中にあるため、古墳築造時にローム層の中から偶然掘り上げられたのではないかと考え、ナイフ形石器が出土した周辺に狙いを定めて、ローム層の発掘を行いました。季節は秋から冬へと変わっても、目指す石器は中々出てきません。そろそろ諦めようと思いだめた雪の降る寒い日、作業員さんの手先をじっと見ていると、「ガチン！」という音がして、もう 1 点のナイフ形石器が出てきました。作業員さん達と手を取り合って大喜びしましたが、実に、鳥取県内で初めて旧石器発掘調査中にナイフ形石器が出土した瞬間でした。（佐伯）



周溝発見の石器



調査出土の石器

## センター・資料館日誌

- 4月 7日 永江青老会 21名、埋文センターに見学来訪。
- 4月 11日 伯楽塚遺跡・小野第2遺跡の調査が開始された。
- 4月 20日 境矢石遺跡の調査が開始された。
- 5月 1日 福市遺跡つつじ祭り、天候不順で五千石小体育館へ会場変更。
- 5月 10日 鳥取ふるさと巡りの会 21名、福市遺跡と資料館見学に来訪。小野第2遺跡の現地調査が終了した。
- 5月 15日 福市遺跡ガイドツアー開催、受講者 11名が参加した。
- 5月 26日 米子錦ライオンズクラブ、福市遺跡を清掃奉仕された。
- 5月 29日 考古学講座「旧石器・縄文時代のよなご」開催、受講者 18名。南部町の東西町五月祭に境矢石遺跡の出土品を展示出品。
- 6月 8日 日南町山上公民館 20名、福市遺跡と資料館見学に来訪。
- 6月 18日 境矢石遺跡4区、5区の現地説明会が開催された。
- 6月 22日 福市考古資料館企画展「発掘調査速報展」が開催された。
- 6月 24日 尚徳小学校3年生60名が埋蔵センターと福市考古資料館に来館し古代学習と火起こし等の体験学習を行った。

## 編集後記

米子市埋蔵文化財センターのたよりの第1号を発刊しました。今後も地域の古代史情報を提供しますので、お楽しみに！

## 行事案内

### 「福市考古資料館企画展」

#### 『発掘速報展』

近年、米子市教育文化事業団が米子市及び南部町で実施した遺跡の発掘調査の成果を紹介する展覧会です。

展示している資料は、米子市の博労町遺跡、陰田第3遺跡、南部町境矢石遺跡から出土した土器や石器です。

福市考古資料館へ是非ご来館ください。

開催期間 6月22日(水)

～7月25日(月)

休館日 毎週火曜日・7月20日

開催時間 午前9時30分～午後5時

観覧料 無料



博労町遺跡の石製品

発行日 平成23年6月30日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp